

がん診療におけるPDCAサイクルの実施状況について(2021年度)

分野	番号	課題名	目標設定	Plan	Do	Check	Act
教育研修	1	web研修会企画し、教育研修の充実を図る	web研修会を開催する	Web形式の研修会の普及。また、ハイブリッド型研修も同時に運用し、参加者の増を図る。	医師や看護師の教育研修のような参加者が比較的多い研修について、Web形式で実施する。	症例検討や実践的な内容については、Web形式のみでは困難であったため、ハイブリッド型の研修が主体となった。	感染症の影響が今後緩和されることも見込まれるが、引き続きハイブリッド型の研修を推奨し、参加者の充実を図る。
	2	教育研修の充実のために、県内web研修に参加する	県内web研修に参加する	・全職種がZoom等のICT(情報通信技術)を運用できるようマニュアルを作成し、積極的な参加を図る。 ・がん関連の研修に1回以上参加。	・マニュアル作成。 ・集合型及びWEB参加型を併用した研修の積極的実施。 ・千葉県がん薬物療法チーム研修会の参加。	・ICTの活用は進んでいるが、事務局での運用が主体であり、全職種には至っていない。	・集合型及びWEB参加型を併用した研修を継続して実施し、運用方法の周知を同時に図る。 ・がん関連の研修について広域的に参加。
	3	1.「緩和ケア病床運営部会」主催による院内勉強会を実施 2. 症状コントロールについての勉強会を5回実施 ・疼痛アセスメント ・がん疼痛の薬物 ・消化器症状 ・がん患者の精神症状 ・テーマ未定 3. 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、グループワークは行わず、講義形式で開催	緩和ケアに関する勉強会を行い、病院職員全体の知識の向上、病院全体における緩和ケア提供体制の向上を図る	1. 勉強会の告知について ・一覧表を作成し配布。 ・一覧表を院内掲示する。 ・勉強会開催前(1～2週前を目途)に再度告知。 ・院内で情報共有できるツール(TRIO、看護部情報共有フォルダ)を活用し勉強会を告知。 2. 勉強会の実施 ・2021年9月より年5回予定。 ・講師は医師、看護師、薬剤師などPCTメンバーで持ち回り。 ・テーマ:疼痛コントロールなど症状マネジメントに関する講義。 ・開催時の状況に応じてweb開催も考慮。 3. 勉強会終了後 ・アンケートを作成し、次年度に生かす。	左記の計画を実施 講師の都合にて、10月より開始。 10月:がん患者の精神症状について 11月:消化器症状について 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、グループワークは行わず。 参加者は少人数なのでweb開催は行わず、講堂で開催。 開催の方法については感染対策室と相談の上開催した。	2回開催の時点では、学びになったとのアンケート結果が多い。 研修の開催に関しては、今まで通り講堂で開催を望む声が多かった。 また、今後希望するテーマでは事例検討が多かった。	今年度は講義形式で開催したが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、要望の多かった事例検討をグループワーク形式で行いたい。
院内がん登録	1	登録内容の精度向上	登録実務者の知識の向上と平均化	・個人が抱えている登録についての不明な点を洗い出し、院内がん登録SNS等を活用し、理解、共通認識していく。 ・院内がん登録標準様式、部位別テキスト、登録ルールの変更等の再確認。 ・国立がん研究センター、千葉県がんセンター主催の研修会修了後、確認のための勉強会を開く。	・互いにダブルチェックを行い間違えている所について標準登録様式、登録ルール等の資料を用いて確認、共有し知識の平均化を図った。 ・登録業務における不明な点は院内がん登録SNS等で情報を収集、共有し知識の平均化を図った。 ・千葉県がんセンター主催の研修会への参加。	・互いにダブルチェックを行ったことで、院内がん登録標準様式、登録ルール等について再確認し、知識の平均化を図ることができたと思われる。 ・今年度は専従者が中級者認定試験受験のためのEラーニングや自己学習をしたため、知識の向上を図ることができた。	・現在2人体制(専従者と専任者)で業務を行っているが、専従者の登録件数が専任者より多いため、専任者のダブルチェックにかかる負担が大きい。専任者の負担を少なくし、登録業務に時間を費やせるよう考えなければならない。 ・来年度も同じ目標で院内がん登録業務に取り組んでいきたい。
相談支援	1	相談員基礎研修の未受講者がいる現状がある	1. 相談支援の質向上のため、相談員基礎研修や県相談員研修会を受講する実務者が増える 2. 拠点病院においては、認定がん専門相談員が1人はいる体制になる(2021年頃までに)	基礎研修1～2の未受講者に受講推奨。基礎研修1～2を受講している者は、3を受講するように推奨。	基礎研修1～2については受講推奨した。 3は申込を行った。	基礎研修1～2については他の研修の兼ね合いで受講できず。3は申込をしたが、当選に外れてしまった。	基礎研修1～3について申込をする。
	2	周知活動における施設差により、周知が進んでいない可能性がある	①地域に向けたがん関連イベントへ積極的に参加する ②各病院の職員ががん相談支援センターを理解するための活動を年1回は開催する	①昨年からがん相談員が配置されたため、院内へ周知活動を行う。 ②再開するがんサロンの周知を地域の広報活動を利用して行う。	①今年度、周知活動は出来ていない。 ②10月26日にサロンを再開するにあたり、事前にチラシを市へ持っていき、区町回覧に載せてもらうように依頼した。	①周知活動は出来なかったが、日々の業務を通じて院内に浸透してきていると感じる。 ②区町回覧にてサロンの再開を周知できた。	①院内でも浸透してきているが、新しいスタッフも入職するため周知方法検討する。 ②今年度と同様に来年度も続けていく。
緩和ケア	1	がん診療連携拠点病院等において、基本的な緩和ケアを実践できる人材の育成	「がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」受講率を上げる。 ①1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師:90%以上の受講 ②自施設に所属する臨床研修医:100%の受講	1. 研修対象者かつ未受講者を把握。 2. 対象者に直接、研修参加を促す連絡をする。(e-learningを含め) 3. 対象者の上司に部下の研修参加状況を伝え、上司からの働きかけを依頼する。 4. 院内の人事部門と連携を図り、初期臨床研修医に対して受講の呼びかけをする。 5. 看護師、薬剤師など医師以外の職種にも参加を呼びかける。	・在籍する修了者、未受講者及び対象者のリストを作成し、直接周知または所属長からの働きかけを実施。 ・緩和ケアを担う看護師より各病棟へ周知。	・臨床研修医から多くの受講希望があり、また、直接緩和ケアに携わらない医師、看護師に関しても受講希望があった。	・今年度受講希望がなかった職員への周知徹底。 ・在籍職員への修了報告の実施。 ・感染症対策と緩和時の院外からの募集を再開。
	2	県内施設における、緩和ケアチーム活動の質向上	チーム活動の質を向上する	1. 日本緩和医療学会主催の緩和ケアチームセルフチェックプログラムに参加。 2. 緩和ケアチームへの依頼体制の整備、見直し。 3. 運用の周知徹底。	1.セルフチェックプログラムは参加申し込みはしたがコロナ禍によりPCU閉鎖などあり実施できず。 2・緩和ケアチームへの依頼体制は昨年度同様の方法で継続。 3. 院内ポスターの掲示を確認、掲示がないところは掲示した。	コロナ禍によりPCU閉鎖、病棟再編成などあり、PCTのNsも病棟支援などあり大きな改善はできなかった。	コロナの感染状況にもよるが、コロナ禍で停滞したチーム活動を昨年並みに維持、改善できるよう計画、実施していく。
地域連携	1	紹介患者・逆紹介患者の増加	開業医とのスムーズな連携、広報の充実	・紹介患者のスムーズな受け入れ。 ・WEBを利用した効果的な情報発信。 ・診療体制や病院情報等についての広報。	・医療機関の積極的訪問。 ・FAX診療申込の推進。 ・ホームページ、SNS等を活用した情報発信。	・連携病院との学術講演や意見交換はWEB会議ツールを用いて実施。 ・市民・団体・企業向けに出前講座を実施。	継続及び制限緩和時の活動拡大。